

あおぞら市に今年も出店

明日葉など賑やかに販売

多くのお客さんが訪れた物産店



5月
19日に神楽坂商店街
で行われたあおぞら市。出
店11回目のふるさとネット
の物産店はすでにお馴染みだ
が、今回はバルーンアート教
室を行ったこともあり、い
つも以上に多くの人で
賑わった。

5月19日は雨が心配さ
れたが、すっきりとした
五月晴れの一日となり、
あおぞら市は多くの人で
賑わった。
ふるさとネットが今回
販売したのは、明日葉、
野竹、芋も
ち(さつま
ぎ)、赤飯、
山菜、おこ
わ、明日葉
の天ぷら、
くさや(青



今回も好評だった天ぷらの実演販売



バルーンアートを楽しむ子どもたち

むろ、とびうお)。今回
も、島民の方が前日に上
京し、赤飯や山菜おこわ
の調理を行い、販売に備
えた。
開始前から店頭の商品
を覗くお客さんが多く、
中には事前予約する方も
いた。野竹は好評で、1
時間半で完売した。

好評だったバルーンアート

今回は、新たな取り組
みとして、子どもたちを
対象にバルーンアート教
室をふるさとネットのテ
ントの横で行った。子ど
もたちは、指導を受けな
がら一緒に犬や剣などを
作り、完成すると嬉しそ
うに笑いながら保護者に
見せていた。体験料は無
料だが、寄付を募ったと
ころ多くの方が協力して
くださったとともに、商品
に興味を持ち購入してく
ださる方も多かった。
バルーンアートの指導
をしてくださったのは、
以前お子さんの通う学校
のPTA行事などで披露を
していた座間かず枝さん。
「最近はこの技術を
生かす場がな
かったので、この
ようなイベントに
参加することがで
きて楽しかった」と
笑顔で感想を述
べていた。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇ふれあいコールのお知らせ

8月と10月に、ネッ
ト事務局よりふれあい
コールを行う予定で
す。在京島民の方々の
お話を伺い、現状把握
をしていきたいと思い
ます。よろしく願い
します。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと
再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：加藤

ご寄付者名

吉永和恵様、高橋栄一様、
佐藤就之様、佐藤宗ノ子
様、平松尚志様、横井和
之様、赤池孝之様、小川
恵美様、高木千陽様、板
倉美紀子様、栗原未帆様、
千田香菜様、嵯峨山陽香
様、鈴木美希子様、〇様、
加藤さおり様、吉川美穂
様、山中恵美子様、芳賀
雅美様、菊池千春様、山
田貴久様、小曾スミ子様、
久保恭子様、木村健二様、
南海タイムス社様、宮澤
雅美様、金子智様、谷原
和憲様、鈴木節子様、小
久保泰枝様、木内一宏様、
倉持房枝様、山崎太郎様、
中島健二様、香川澄子様、
今井家子様、吉田信行様、
青谷知己様、宇田川規夫
様、室崎益輝様、M様、
齋藤實様

(4月1日～6月7日)

ふるさとネット 2013年度総会を実施

新たな活動方針を決定

昨年度 支援者との新たな繋がりが

「三宅島新報」は隔月発行を継続

1 情報活動

「三宅島新報」及び「ふるさとだより」は、隔月発行することができた。引き続き隔月発行できるようにしていきたい。ふるさとネットのホー

2 訪問活動

ムページの更新も定期的に行った。日程が合わなかったり連絡がつかなかったりしたために、定期的に訪問を行うことが難しかった。

3 支援層と交流の広がり

た。今後は訪問活動先の絞り込みを行い、ふれあいコールも充実させていきたい。3 支援層と交流の広がりをあおぞら市への参加、豊島区防災フォーラム、

4 ご寄付・活動等の協力

齋藤塾の勉強会への参加などを通じて、新たな人脈の形成と繋がりを持つことができた。今年度も皆さまからの温かいご支援をいただき、三宅島新報の発行、訪問活動、他被災地との交流など、活動を広げることができた。感謝申し上げます。

5 NLP米軍基地誘致問題について

石原慎太郎維新の会共同代表の「在日米軍の空母艦載機離着陸訓練飛行場三宅島建設(NLP)発言」に反対する佐藤会長談話を「ふるさとだよりNO.35」で出した。櫻田村長は、「絶対受け入れない」と答弁した。今後も注視していく。

ふるさとネットは、4月27日に巣鴨の喫茶ルノアール会議室で総会を実施した。この中で2012年度の活動報告を行うとともに、および13年度の活動方針を決定した。この中には、情報活動や専門家との交流をさらに強化することなどが盛り込まれた。

2012年度の報告

【4月】

21日 世話人総会

【5月】

1日 新報39号発行、ふるさとだよりNo.31発行

7日 三宅島の復興支援を考える報告・交流会（主催・齋藤塾）

20日 神楽坂あおぞら市にて物産店出店

【6月】

1～3日 三宅島緑化プロジェクト参加

16日 世話人会

【7月】

1日 新報40号、ふるさとだよりNo.32発行

21日 在京者・桐ヶ丘都営住宅ふれあいコールと訪問

29、30日 東日本・三陸田野畑村等の視察・支援

【8月】

2日 三宅大学訪問

19日 島市出店・阿古

20～21日 向上高校新聞委員会来島

【9月】

1日 新報41号発行

5～7日 三宅村住民懇談会

15日 世話人会

17日 島市出店

【10月】

7日 神楽坂あおぞら市

14日 島市出店・阿古

【11月】

1日 新報42号、ふるさとだよりNo.33発行

3～4日 三宅島大学参加

【12月】

2日 島市出店・産業祭

15日 ふるさとネット忘年会

【1月】

1日 新報43号、ふるさとだよりNo.34発行

【2月】

9日 世話人会

12日 豊島区防災フォーラム打ち合わせ

27日 豊島区防災フォーラム最終打ち合わせ

【3月】

1日 新報44号、ふるさとだよりNo.35発行

6日 災害復興まちづくり支援機構春の研修会（主催・齋藤塾）

※スタジオ鶴吉亭

玉川大学大森哲至講師による講演、ネット佐藤会長の報告等

9日 豊島区防災フォーラム・模擬店（島内から2人が参加）

新春の集い（ビストロおきみくら）

16日 世話人会

13年度活動方針

専門家交流などを強化

1 帰りたくても帰れない
未帰島者・在京者の現
状と支援の見直しにつ
いて

帰島後8年間を経過
する中で在京者支援を
見直す時期をむかえて
いる。アンケート結果
は、11年では、帰島し
ないが53・3%、いず

れは帰島したいが23・
3%になった。無回答
も23・3%。

今後は、訪問活動は
控えめに、ふれあ
いコールを年3回程度
行い「三宅島新報」等
の情報提供、家屋、土
地などの問題を村やN
PO団体に紹介などを
行う。

計報 池田金好副会長死去

池田金好氏(いけだ・かねよ
し)ふるさとネット副会長)4
月24日、脳出血のため死去、78
歳。28日の告別式には、佐藤会
長も参列した。

避難前は、都三宅島勤労福祉
会館に勤務、帰島後は漁と伊豆
地区自治会長も務め、09年から
ネット副会長、11年6月6日、
人口透析を切望する有志の会会
長に就任した。1238筆の請
願署名を集め今年の秋には、人
口透析導入も実現する矢先の訃
報であった。

平成25年度役員

会長 佐藤就之
副会長 酒井一豊 光安千久子
事務局長 加藤さおり
事務局長次 糸井真由美
会計事務 有本香保子
世話人 山田貴久 山尾啓予
座間裕美香 吉田信行 永山詩織 菊池忠男
勝見吉雄 京町 増田菜穂子 横井和之
監査 大石陽子 小林舞
(順不同・敬称略)

2 島内活動を強
化する。
3 情報活動、専
門家交流を強
化継続する。

8 組織活動の強化につい
て。世話人会開催、ネッ
ト協力者拡大を図る。
※詳細はHPを参照。

4 長期災害被災者救済の
制度改革をめざす。

5 神楽坂おおぞら市など
イベントで三宅島の宣
伝と現状を訴える。

6 被災地との交流。
7 ふるさとネットのイベ
ントの再検討。

12月14日「三宅島応
援交流会」を、ボラン
ティアと交流団体など
で行う。

12年度決算・13年度予算

【収入の部】

科 目	12年度予算	12年度決算	13年度予算
寄付金	600,000	355,000	350,000
活動収入	200,000	315,010	300,000
雑収入	20,000	5,000	10,000
前期繰越金	241,354	249,591	138,567
収入合計	1,061,354	924,601	798,567

【支出の部】

科 目	12年度予算	12年度決算	13年度予算
広報費	660,000	543,591	550,000
訪問活動費	20,000	0	5,000
活動費	230,000	156,428	150,000
会議費	30,000	30,646	29,000
事務備品費	10,000	4,237	6,000
通信費	40,000	26,500	25,000
渉外費	60,000	0	10,000
雑支出	11,354	61,100	23,567
支出計	1,061,354	822,502	798,567
次期繰越金	0	138,567	0

新役員の紹介



光安千久子さん



加藤さおりさん

今年度より、
役員の入替え
が行われた。
3月に亡く
なった池田金好
副会長の後任に
は、光安千久子

(みつやす・ちくこ)さ
んが就任した。光安さん
は三宅島神着地区在住
で、神着老人クラブの副
会長も務めている。「チ
クちゃん」の愛称で呼ば
れ、和裁は技能の段持ち

の腕前。今は料理など
を手掛けており、島市
では毎回開始前から行
列ができる程の人気で
ある。神楽坂おおぞら
市でも活躍している。
事務局長には、前年
度産休に入った大石事
務局長の代行を務めて
いた加藤さおり次長が
そのまま事務局長に就
任となった。

高濃度地区の指定解除に

国の生活再建支
援制度の延長が26
年度で打ち切り予定
となった。
帰島できない高
濃度地区居住者、
高濃度受性者、特
別に認められた世帯
の引越経費、居住関
係経費と都制度、村の高
濃度地区の被災家屋の劣
化保全(限度額50万円)。
村制度以外はこれまでの
帰島者も対象であった。
三宅村は、6月14日に
三池・沖ヶ平の高濃度地
区を解除し営業行為を認
め、条件付で準居住地区
とし、7月1日から施行
すると発表した。

DTPA 東北仮設の新聞を編集 「新報」のノウハウ生かして

本紙の編集作業を担当するDTPAは、2011年12月から、東日本大震災の被災地である岩手県宮古市田老地区の仮設住宅の住民を支援するNPOの広報紙の編集を行っている。「三宅島新報」編集のノウハウを生かすかたちで作業を行うことで、6月までに15紙を発行することができた。

ボランティアきっかけに

向上海校新聞委員会の卒業生がつくるDTPAが発行のお手伝いをしていいるのは、岩手県宮古市田老地区にあるグリーンピア陸中宮古に造られた仮設住宅を拠点に活動す

るTGM（たろう元気なまちづくりプロジェクト）という団体の「明日に向かって」という新聞である。

震災のあった2011年の8月に、同仮設住宅で向上海校新聞委員会でDTPAがボランティアをしたことがきっかけで、同年

12月からこの仮設住宅の400戸に配布する広報紙の編集作業を行うことになった。その後同紙の発行が一時途絶えることがあったが、昨年9月に復刊、その後は月に一度の発行を続けてきた。

1回、週末に夜行、現地一泊で田老に足を運んでいる。現地では取材活動やPCによる編集作業を行って新聞を完成させている。また、現地に行けない月には、TGMのメンバーから情報や写真を送ってもらい編集を行っている。

前回は「明日に向かって」の第14号の編集のため



「明日に向かって」1号の編集（2011年12月）

情報クリップ

▼「三宅島復興支援なんでも相談デスク」

災害復興まちづくり支援機構では、三宅島のために無料相談を行っている。元三宅支庁齊藤総務課長や弁護士など協力しています。相談窓口アクセス (<http://www.j-drso.jp/>)。

▼牛頭天王祭（神着）

7月13日（土）、14日（日）に実施。（5月1日号の15日を14日に訂正。お詫びします）

▼富賀神社大祭（島内）

8月4日・阿古地区、5日・阿古～伊ヶ谷、6日・伊ヶ谷～伊豆、7日・伊豆～神着、8日・神着～坪田、9日・坪田と全島を巡行。



「明日に向かって」6号



「明日に向かって」15号

編集後記

新報編集を通じ、ふるさとネットの訪問活動や被災地訪問に同行させていただき、それがなければ気づくことができない被災地の様子を、肌で感じることが出来ます。そのような中で私たち自身も活動の幅を広げることができています。これからはどこか役に立てたら嬉しいのです。

（DTPA一同）

に5月26日から27日にかけて現地向いた。この号（この面に写真）では、田老地区で行われた小中学校の運動会や体育祭の様子を1面トップに、26日にグリーンピア三陸みやこのアリーナで実施された「鎮魂の祈り」のイベント、田老地区のお店や牧場の紹介などを取り上げた。

このように、DTPAが新たな支援に活動を広げている背景には、「三宅島新報」の編集を通じて、ノウハウを蓄積してきたことがある。